

平成26年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 といはら けんじ
土肥原 賢二 1883~1948年 》

—岡山県出身の陸軍大将—



尼港支那砲艦事件 (登録番号：陸軍省-西密大日記-S1-1-24)

土肥原賢二大将は、明治37年10月、陸軍士官学校(16期)を卒業後、奉天特務機関長、第14師団長、第7方面軍司令官などの要職を歴任しました。この史料は「尼港支那砲艦事件」で、大正9年3月、尼港事件に際し、同港に停泊中の支那砲艦「江亭」の監視兵が、3月12日未明、同艦に接近した日本軍の一部に機関銃射撃を加えた事件等に関する日支共同調査の資料が綴られています。当時参謀本部付であった土肥原少佐は、陸軍側の調査委員に任命され、「支那側ノ行為ハ其標榜スル厳正中立ニ違反セルコト明カナルノミナラス却テ赤軍ニ加担シ戦闘ニ参加セル証跡アリ」との意見を提出しています。交渉の結果、大正10年1月14日、中国政府は日本政府に対し遺憾の意を表するとともに、関係者の処罰と三万円を日本政府に交付することなどで解決しました。



五相會議決定事項により政務を指導すへき件 (陸軍省-陸支密大日記-S13-24-133)

この史料は、陸軍次官より北支那方面軍参謀長、中支那派遣軍参謀長及び同特務部長、台湾軍参謀長に宛てた電報「五相會議決定事項ニヨリ政務ヲ指導スヘキ件」(昭和13年8月4日付)で、その内容は「貴軍ノ指導セラルヘキ対支政務関係事項ニ就テハ自今別冊総理、陸、海、外、蔵ノ五相會議ニ於ケル決定事項ニ準拠セラレ度」とし、別冊「五相會議決定事項 其一」を送付しています。これによれば五相會議は7月26日、陸軍、海軍、外務三省の出先機関の対立を避け、一元的対支政策の実行を期するため、陸軍は土肥原中将、海軍は野村直邦少将(後に津田静枝中将に変更)、外務は坂西利八郎(退役陸軍中将)をそれぞれ各省の代表とする「対支特別委員会」を設置することを決定しています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>